姫路市方言

鎌田良二

はじめに

本誌『甲南国文第三五号』（昭和六三年）に拙稿「相生市方言」を記したが、それと同様の方法で今回は姫路市の方言を試みた。前回のものと比較し両市の方言を見て頂きたい。

「アクセント」については姫路市立中学校女生徒の発音から当市のアクセント体系を記した。

「音韻」は播磨一般に多い形を当市在住五人の成人男女から聞き得たものである。

「文法」も播州一般の特徴ある形から当市での用法を記すものである。

「語彙」のうち、動物類、植物類、道具・生活類については姫路市の形と、昭和五十三年から五十六年までの四年間、私と甲南女子大学学生とが全県調査したものの一部とをあげ、日時・天気類、状態・数量類、人体・動作類は当市のものと県下一般に多い形とを記した。

「文献」では明治四十二年刊の『太市村郷土誌』の「方言」の項が現在どのようになっているか、即ち、語形変化・意味変化しているか、あるいは使用されなくなっているかなどを見た。

「文献」で過去の状態と現在とを比較したが、また将来どのようになっていくだろうか、少くとも二十年後どのようになるだろうかを見るため現在の中学生のことばの傾向を知ろうと「動態調査」を行った。

一　アクセント

本市のアクセントは、甲種アクセントである。本市アクセント体系は以下に示すとおりである。これらは、市立白鷺中学校・市立大的中学校それぞれ三名ずつと市立東光中学校二名の女生徒による発音から聞き得た型である。

○|○　㊀飴　牛　風　口　竹　鼻　水　着る　振る　泣く

○|○　㊁石　歌　音　紙　胸　橋　雪　㊂足　犬　貝　髪　米　耳　山　綿

○|○　㊃糸　稲　箸　㊄雨　井戸　書く　見る　降る　良い　無い

○○|○　㊀着物　桜　柳

○○|○　㊃光　袋

○|○○　㊄朝日　命　涙　眼鏡

○|○○　㊃頭　女　鏡　薬　話　卵　㊆兜

○○|○　㊅兎　鼠

○○○|○　鉛筆　散髪　流れる

○○○○|　ひるめし　悲しい　詳しい　正しい

○○|○○　山々　空しい

○|○○○　大根　タンポポ　富士山

○○|○○　親指　あがるな　歩いた

○○○|○　色紙　口唇　松茸　おいしい

○○○○|　学校　かくれる

○○○○○|　田舎者　泳ぎます

○○○○|○　山間部

○○○|○○　山椒　泣きました

○○|○○○　しあさって

○|○○○○　白いやろ（う）

○○|○○○　お月様　しあさって　おじいさん　赤かった

○○○|○○　春霞　かくれんぼ

○○○○|○　頼りない

○○○○○|　お正月

右の一覧にある㊀㊁㊂などは、アクセント研究でいう〝第一類〟〝第二類〟〝第三類〟などを表す。

三拍語に○○|○が、ここには出ていないが、都染直也氏の調査では市内林田町下伊勢の高年層で「浅瀬・あさり（貝）・遊び・綽名・市場・桶屋」などが、この形になっている。

三拍名詞㊆「兜」は龍野市・相生市では○|○○である。和

田実氏の調査で、この語がこの形をとるのは、「揖保郡・宍粟郡にひろくわたる傾向である」とのことである。（『龍野市史第七巻「方言」』和田実氏）

なお、姫路市のアクセントを詳しく調査したものに都染直也氏『兵庫県中播地方方言アクセント資料――姫路市・夢前町・香寺町・家島町における三世代の二・三拍体言――』がある。これは二・三拍名詞約二千三百語を低年層（中学生）・青年層・高年層につき、姫路市およびその周辺域十地点のアクセントを調査したものである。

二　音　韻

音韻は、姫路市の特徴あるもののみについて記す。

ガ行鼻濁音……語頭はg音であるが、語中・語尾のガ行音は鼻濁音ŋ音になる。今回のインフォーマントの成人には現れるが、中学生にはあまり現れないようだ。以下本稿中でガギグゲゴで記したものも語中・語尾ではŋ音であると解してほしい。

クヮ・グヮの音……今回の調査でクヮ・グヮは、明治三十三年生まれの桜井芳樹氏・明治四十四年生まれの大竹繁生氏は「菓子」のときクヮシとなるが、西瓜・喧嘩はスイカ・ケンカである。

クヮは龍野市にはないようだが、昭和六十年に相生市で調査した折に明治四十年生まれの人からは、はっきりクヮ音が聞かれた。クヮシ（菓子）・スイクヮ（西瓜）・ケンクヮ（喧嘩）など。

ザ・ダ・ラ行音の混乱……「材木」をダイモクというなど、これは成人に多く、しかも、語によってたまにおこる（中学生にはあまり聞かれない）など少ないようだ。その中でも、おこりやすいものとして、デニ（銭）ドッキン（雑布）はzとd、リンリキシャ（人力車）はzとr、ノゾ（喉）、はdとzとの混乱による交替などがある。

連母語と子音

eiはe:となる。ゼーキン（税金）・ケーサツ（警察）・テーネー（丁寧）

ieはe:となる。メータトーリ（見えた通り）・ケーテモタ（消えてしまった）。ただし、ヒエル（冷える）はieのままである。

ia・io・aaの間に、グライド（わたり音）jが入ることがある。ミヤイ（見合）・シヤイ（試合）・ニヨイ（臭）・バヤイ（場合）

～がÇと交替（シとヒとの交替）・ヒチヤ（質屋）・ヒク（敷く）

mがbと交替する。サブイ（寒い）・サビシイ（淋しい）・ケブル（煙る）

sがhと交替する。ホンナラ（それなら）・アリマヘン（ありません）

音節……一拍語を二拍に長音化する。これは古くからの近畿方言の特色である。ケー（毛）・テー（手）・ハー（歯）・メー（目・芽）・スー（巣）

音節脱落

イの脱落　ヤラシイ（嫌らしい）

略音便　イテコイ（行ってこい）・ウトテ（歌って）・オモテ（思って）・クテキタ（食ってきた）・モテコイ（持って）・ハロタ（払った）など促音便の促音を脱落させるようにウ音便になるもののウ音を脱落させるものもある。クテコイ（食うてこい）・ハロテコイ（払うてこい）

「てやる」はタルとなる。オセタロカ（教えてやろうか）

撓音化　ワカラン（わからぬ）・タンネル（尋ねる）

拗音化　フッリョル（降りおる＝「降りつつある」の意）・チャウ（違う）

音韻転倒　カダラ（躰）・トナダ（戸棚）

音韻について今回の調査でわかったことに訛音は、「意識によって訛音を起こすか、起こさないかの違いが大きいということである。」

市内で一般的に訛音化しているものが、市五郎右衛門邸の桜井芳樹、大竹繁生両氏は屋敷ことば（武家ことば）では訛音化せず、「それは町ことば」で「ここではそうならない」と言っていたものがかなりある。

先に記した「ザ・ダ・ラ行音の混乱」は屋敷ことばでは起こらない。「mがbと交替する」ことは「少ない」、「寒い――サブイ」「淋し――サビシ」なども「少ない」。「音韻転倒」も町ことばとして聞く程度だということである。

このように「屋敷ことば」と「町ことば」を大正末期まではっきり意識していたという。

都市部で訛音化が少ないのも同様に「意識」の問題といえるのだろう。

三　文　法

文法についても姫路市の特徴あるものについて記す。ここで

は浜田宏氏（飾磨区阿成・大正十三年生まれ）から得られたものを中心として記す。後に掲げる「動態調査」の四中学校での結果とあわせて見ていただきたい。

動　詞

一段活用動詞のラ行五段活用化は当地に限らず県下全般的なものである。着ラヘン（着ない）、落チラヘン、見ラヘン、受ケラヘン。見ロカ（見ようか）、起キロカ、受ケロカなど。（表A）でも、大的中学男子で着ラヘン・着ランを合せると六十五％となる。成人にはあまり多くは聞かれないということだが、中学生にこの形が多いことは将来ラ行五段化がふえるということである。

未然形　打消のヘンがつづくとき、一段活用・変格活用では間にヤが入ることがある。見ヤヘン・着ヤヘン・来ヤヘンなど、これは古くは「見はせぬ」の形であったものであろうか。ただし、ヤの入らない形と並用される。着ーヘン・着ヤヘン、（来）コーヘン・キヤヘン、勉強セーヘン・勉強シヤヘン。また、このように、起キーヘン・落チーヘン・延ビーヘン・降リーヘン・植エーヘンと長音の形になる。

大的中学で着ヤヘンが三十％前後ある。

連用形・音便形　関西方言で連用形・音便形を用いることが多い。命令表現に、ハヨ書キ（早く書け）、ハヨシー（早くしろ）のように連用形を用いる。

仮定表現にも音便形にタラをつける。読ンダラ・書イタラなど。

終止形　禁止の「来るな」「するな」をそれぞれクナ・スナと「る」を落とす形がある。

仮定形　タラをつけて仮定条件をあらわす。先にも記したように読ンダラ・見タラ・受ケタラ・来タラ・シタラである。

未然形を用いて、行カエノニ（行けばよいのに）、書カエノニの形にもなり、これが、行キャエエノニ、書キャエエノニともなる。

さらに、行カー（行くよ）、書カー（書くよ）と未然形を用いて意志表現にもなる。

命令形　ハヨ書ケ（早く書け）はいかにも命令口調、ハヨ書キの形の方がいくらかていねいで、やわらかいし女でも使える。さらにていねいになればハヨ書キーナとなり「書きなさいよ」の感じになる。もともと命令の意があるのだからていねいと言っても敬いではない。

来イは命令口調で男のことば、キーナは「来なさいよ」の感じで女がよく用いる。ハヨセー（早くしろ）に対して、ハヨシ

ー、ハヨシーナは「早くしなさいよ」の感じになる。

略音便　促音便「思った」の促音、ウ音便「思うた」のウ音を省いた形を略音便という。「思った・思うた」がオモタとなるもの。洗った・洗うた——アロタ、誘った・誘うた——サソタ、食った・食うた——クタ、歌った・歌うた——ウトタ、笑った・笑うた——ワロタ。促音便だけでウ音便にならないもの、でも、持って来た——モテキタ、取って来い——トテコイとなる。ただし、「酔った・縫った・吸った」などはヨタ・ヌタ・スタとはならないようにすべてのものがなるわけではない。略音便は現在の中学生の間にもかなりあるようだ。

サ行イ音便がある。「傘をさして」をサイテとする形である。浮かして——ウカイテ、写して——ウツイテ、下ろして——オロイテ、残して——ノコイテ、放して——ハナイテ、干して——ホイテ、流して——ナガイテなど。これは中部地方・中国地方・北九州地方に多く、高知県にも多い形であるが、古く中世・近世の狂言などにも出てくる形である。当市の中学生では減少しているようだ。これもまた、サ行五段活用の語のすべてがイ音便になるわけではない。「押す・通す」などは当市ではならない。略音便もこのサ行イ音便も語幹が一音節の語は比較的なりにくいようだ。

なお、「行ってきた」はイッテッタ、「取ってきた」はトッテッタとなる。

「畳む」はタタムとともにタトムともなる。同じように「並ぶ」はナラブ、ナロブ。「挟む」はハサムとハソムとなり、「染む」はシュムとなる。

動作態　「動詞＋ている」の形で「書いている」は書イトル・書ッキョル（書キヨル）となる。

①継続・進行　今、書イトルトコヤ、チョット待ットッテ（今、書いているところだ、少し待っていて）

今、書ッキョルトコヤ、……

と、トル・ヨル両形とも同意に使える。

②將然　「今まさに……せんとする」（そのことが、おころうとしている）アッ、危イ、落チヨル（落ッチョー）　このときはヨルであって、トルは使えない。

③完了　モオ、ヒト月前ニ読ンドルは「読んでしまっている」の意、このときはトルで、ヨルは使えない。

帰ットルは既に家に到着して家に居る、の意。帰ッリョル（帰リヨル）は、帰りつつある、である。

「今、雪が降りつつある」は、雪、降ットル・降ッリョルであるが、「空は青空で庭に雪が積もっている状態」は、雪、降

ットルカラ長靴履イテ行ケとなる。ヨルではない。

形容詞

形容詞活用の特色あるものについて「長い」「良い」「無い」を例として示す。

語幹のままで、「ナガ（長）」は、「ああ、ナガ」の形で使われる。

推量はナガカロで、ナガカロガ短カカロガ、ドッチデモエエ（長かろうが、短かかろうが、どちらでもよい）となる。

連用形は、ナゴとナガカリとがある。ナゴナル（長くなる）、ナガカリヨッタモンヤ（長かったものだ）、昔ワ、ソンナコト、ナカリヨッタケドナァ（そんなこと無かったものだけれど）

仮定形はナガケラ・良ケラ・ヨケリャで、ナガケリャ長イママデエエ（長ければ長いままでよい）。

強調形はナーガイではなくナガーイである。同様に短カーイ、低クーイとなる。

当市で、「赤くなる」と「明るくなる」とが同形でアカナル、またはアコナルとなることについては中学生の「動態調査」の項に記した。

形容動詞

形容動詞について姫路市というよりも県下全体として問題となることは次の二点である。

①「静カダ、静カジャ、静カヤ」のダ、ジャ、ヤのどれになるかということ。これは指定（断定）助動詞のダ、ジャ、ヤの問題と一致するが、当市はヤである。これについては助動詞の項でふれることにする。

②「綺麗だ」という形容動詞を形容詞型に活用させてキレイのイを活用語尾化させることである。

「高くなる」と同じように、キレクナルと形容詞連用形のク語尾にする。「値は高いし、品も悪い」と同じように、「部屋はキレイし、……」と、「綺麗」の語幹に「し」をつける、「静かだ」という形容動詞語幹シズカに「し」をつけることはできない筈。即ち、「綺麗」という形容動詞語幹を完全に形容詞化させていることになる。これは当市を含め播磨一般に見られることである。

キレカッタ、キレカリヨッタモンヤ（綺麗だったものだ）のように形容詞のカリの語尾もある。キレンナルは「綺麗に」と形容動詞連用形「に」の変化したものと見る。

もう一つ、形容動詞のナ終止形があること。これは近世から

ある形で、「さわやかな」で終止形として使われるもの。当市でも、「賑やかなナァ」の形がある。ナァは終助詞で、「静かだナァ」と終止形につく筈のもの。これは古くから連体形の体言を省いた形とは見ていない。

なお、今回のインフォーマントは「静カジャナァ」となると答えた。このようなときにはジャ終止を用いるという。

助動詞

使役　ス・サス、セル・サセル

（表A）に記したように「書カス・書カサス」「書カセル・書カサセル」のス・サス、セル・サセルの用法がある。書カスが多く、書カセルがこれにつぐ。

書カサヘン・書カシテ・書カス・書カセ・書カソーのように五段に活用する。受ケサス・受ケサシテとなる。さらに、一段活用のラ行五段活用化により、着ラス・着ラセル、寝ラス・寝ラセルの形がある。受ケラシテミー（受けさせてみよ）、来ラス・来ラシテミーとなり、来サシテミーと並存する。

打消　ン・ヘン

ンは、ズ（連用形）・イ・ナン（音便形）・ン（終止形）・ナ（仮定形）となる。

今日、午前中ナンニモセズジャ。

ナンニモセズニ文句バッカリ言ウ。

ズジャ・ズヤ・ズニはこの形で慣用的に用いる。

トートー、行カズジマイ　の形もある。

行カイデ終ッテモタ（行かないで終ってしまった）

行カナンダラヨカッタ。

知ラナ（知らなければ）知ランデモエエ。

打消助動詞としては（表A）に見るようにンよりもヘンが一般的である。動詞語幹の語尾がイ段であるときは同化されてヒンとなる。着ーヒン・見ーヒン・落チーヒンなど。

打消過去　ナンダ・ヘナンダ

ナンダはナンデ（連用形）・ナンダ（終止・連体形）・ナンダラ（仮定形）となる。

ヘナンダはヘンとナンダとがいっしよになったものである。

行カナンダ・行カヘナンダ、知ラナンダ・知ラヘナンダを同じように使う。

指定（断定）　ジャ・ヤ

この助動詞はもともと「である」から「でぁ」となり、それが「だ」と「ぢゃ（じゃ）」の二つに分かれたものである。「でぁ」は現在でも能登半島の一部にある。「ぢゃ（じゃ）」から

「や」になった。「や」は江戸時代末期に大阪の女ことばとして生まれたものである。明治三十九年（一八〇六年）文部省の調査で「や専用地域」は大阪市のごく一部分であった。それが現在は近畿全般に広まったものである。隣の岡山県はジャ地域。大阪のヤがどんどん西へ延び当市で現在ナンジャ（何だ）を使うのは五十才以上と言われている。中学生の状況は（表A）のように八十五％がヤであるが、女子の方がヤの率が多いことは大的中学に現れている。

丁寧な指定　ダハン・マハン（稀）

赤穂市では昭和三十年頃まで盛んに聞かれたダハン・マハンである。

デスがダスとなるのは大阪、ドスとなるのは京都。

このダスのスがs——h交替（無声磨擦音どうし）で、ダッセ——→ダッハ——→ダハとなり、それをさらに強めてダハンとなる。ソーダハン（そうですよ）。同様に、マス——→マッセ——→マッハ——→マハン。行キマハン（行きますよ）となる。このダハン・マハンは当市でも古くは使ったが現在は老年層に稀に聞かれる程度になったという。

打消意志　マイ

書コマイ・吸オマイ・ショーマイのマイは老年層に聞かれる。

助詞

助詞の省略・融合と特色あるものについて記す。

が……主格の「ガ」は日常会話で状況判断がお互いに容易な場合は省略することが多い。

オ前、傘〇ナインカ。〈〇印は助詞省略を示す。〉

今日、雨〇降リソーヤ。

主述関係を明確に打ち出す場合は省略しない。

雪ガ降ッリョル。窓ガ開イトル。風ガナイ。

オ（を）……「ガ」よりも省くことがさらに多い。

酒〇飲ンダリ、歌〇ウトタリ。飯〇食ータ。ヨー字〇見てみい。

ニ……対象を示すニは省かない。先生ニ言ウタロ。

結果・目的などを示すニも省かない。ナゴーニナル。三時マデニ行ク。ハヨーニ歩ク。

場所を示すニの省略はあまりない。本ニ書イタルトーリ。

播州方言としては場所を示すときに「へ」を使う。家ニ帰ル——→家エ（へ）帰ル。

ト……「ト言ウ」「ト思ウ」のトは普通省く。

田中〇ユー人。行ク〇思タラ。行コ〇思タラ。

このトは、「何ト」に限り省くことができないで、何チュー人（何という人）のように融合の形になる。

ワ（は）……軽く言うときには省く。アシタ〇雨ヤ。酒〇飲ムケド、タバコ〇スエヘン。これを強調するときは省かない。酒ワ飲ムケド、タバコワスエヘン。返事ワスルモンノ、チョットモ動カヘン。

サカイ……理由をあらわす「だから」の意。ソヤサカイニ（そうだから）。ハカイニともなる。

ナト……「なりとも」の意。オ茶ナト飲モカ。ナンナトセエ。イツナト来イヤ（いつなりとも）。

バッカシ……「ばかり」の意。漫画バッカシ読ンドル。

ナラ……「ながら」の意。三人ナラ女ノ子ヤテ。

モッテ……「ながら」の意。食イモッテ歩クナ。飲ミモッテ話ショオ。

ナンド……「など」の意。飯ナンド要ラン。

グチ……「のまま」の意。皮グチ食ベタ。箱グチホシイワ。

ド……「ぞ」の意。ナンド言ータカ。

ナ……禁止をあらわす。ソンナ事スナ。廊下走ンナ。

カ……疑問をあらわす。ソーカ（カが一般的になった。ソーケは成人層で、一般には少くなった）。

ガヤ……文末につけて強意。サッキ言ータロガヤ。

ジャ……文末につけて強意。ソレグライ、ワシデモセエジャ（私だってするさ）。

ナラ……文末につけて強意。ドコエ、イクンナラ（どこへ行くのか）。

四　語　彙

姫路市の語彙を、動物類、植物類、道具・生活類、日時・天氣類、狀態・数量類、人体・動作類について記す。　動物、植物、道具・生活の類については、姫路市の語形と、〈　〉内に県下の狀況を記した。この県下の狀況は先にも記したように甲南女子大学生と私とで調査したものである。日時・天気、狀態・数量、人体・動作の類は、姫路市の形と、〈　〉内には県内のどことは記さなかったが県下一般に多い形を記した。

動物類

奇大将――オナグソ〈相生・ネズミトリ、龍野・佐用・赤穂郡・ネズミトリ・オナグソ〉

蛇――クツナ〈相生・クチナワ・クチナ・クツナ、赤穂市・

クチナ、佐用郡・クチナワ〉
まむし――ハメ〈相生・淡路・ハメ、赤穂郡・クッチャメ〉
とかげ――トカゲ〈相生・トカゲ、加東郡・ヘビノオバサン・オンバ、明石・ゾーキリ、淡路・トカギ〉
蛙――カエル・㊁ガエル〈相生・ガエル・ギャール、赤穂郡上郡・カワズ、淡路・ガエル〉
殿様蛙――トノサマガエル〈相生・アオガエル、宍粟郡・ドンビキ、養父郡・ドンビキギャール〉
ひきがえる――ヒキガエル〈相生・オンビキ・ドンビキ、播磨・オンビキ〉
おたまじゃくし――ガエルゴ〈北播磨・ヘヘル・ヘラヘラ・タナゴ、宍粟郡・ガールゴ〉
蝸牛――デンデンムシ〈県下広く、デンデンムシ、北近畿・ツムリ、南近畿・マイマイ〉
こおろぎ――コーロギ〈城崎・養父郡・ケラ・オケラ、美方郡・クロト、加東郡・イトジ〉
こがねむし――ブイブイ〈佐用・赤穂郡・カネムシ・カネキリムシ、相生・ブンブン・カネムシ、東播磨・ブイブイ〉
さなぎ――サナギ〈宍粟・佐用郡・ビービー〉
赤とんぼ――アカトンボ〈相生・シューロ、赤穂郡・ショーロトンボ〉
とんぼ――トンボ〈明石・ドンボー〉
蜘蛛――クモ・㊁クボ〈宍粟郡・クボ・ウボ〉
女郎ぐも――ジョローグモ〈佐用郡・ヘイタイグモ、養父郡・トチグモ〉
くもの糸――クモノス〈宍粟郡・クモノイギ、多可郡・クモノイ〉
あめんぼ――アメンボ〈相生・ミズスマシ、多可郡・アメリカ〉
水すまし――ミズスマシ・ゴンゴン〈相生・マイマイ・マイマイコンコン、多可郡・マイマイコ・マイマイコンコン〉
いもり――イモリ〈宍粟郡・イモラ〉
かまきり――カミキリ〈播磨・カミキリムシ・モットイムシ、宍粟郡・オガメ・オガメムシ、淡路・ホトケウマ〉
ふくろう――フクロ・ホクロ〈加東郡・フクロドリ・ネコドリ、播磨・ホーホードリ・ホードリ〉
きつつき――キツツキ〈宍粟郡・キタタキ〉
なめくじ――ナメクジ〈相生・ナメクジラ、宍粟郡・ナメクジリ〉
とさか――トサカ〈相生・トサカ・トカサ、宍粟郡・トツサ

コ、淡路・ドッサカ〉

うろこ――ウロコ〈美方郡・サメ・サミ〉

牡牛――コットイ〈県下広く・コットイ、但馬・コテー〉

牡牛――オナベ〈県下広く・オナメ、相生・オナベ、但馬・オンナメ〉

めだか――チョメンジャコ〈相生・メトト、養父郡・ハリンゴ・ハリンギョ、佐用郡・メトハリ・メトバリ・メトバエ・メットンバイ（小さい魚の総称としてミミンジャコ）〉

もぐら――モグロ〈相生・ムグラモチ、佐用郡・ムクロモチ〉

植物類

あけび――アケブ〈相生・アキビ、宍粟郡・アケボボ、佐用郡・ネコノヘド・ネコノクソ〉

いたどり――ダイジ・スカンポ〈相生・ダンジ・スココン、播磨・ダンジ、宍粟郡・スカンポ、明石・アシナ、高砂・スイスイ〉

きのこ――タケ〈県下広く・タケ〉

すみれ――スミレ〈多可郡・スモートリグサ、播磨・スモートリバナ〉

たんぽぽ――タンポコ〈加古郡・シイビビ、明石・タンポコ〉

つくし――ツクツク〈相生・ホーシコ・ツクシンボ、播磨東南・ツクツクホーシ〉

つゆくさ――ギスグサ〈相生・ギスグサ、美方郡・トンボグサ、播磨・ギスグサ、佐用郡・ハナガラ、県南部・カマグサ〉

どくだみ――ドクダミ〈相生・ドッカメ・ドッカミ、佐用・赤穂郡・ドクハメ、播磨南部・ジューヤク〉

はこべ――ヒヨコグサ〈宍粟郡・ヒズリ・ヘズリ〉

春ぐみ――ゴミ・ゴンビ〈県下ひろく・グミ、相生・グビ、美方・養父郡・ナワシログミ、養父・宍粟郡・ヤマグミ、西播磨・グンビ〉

山ぶどう――カズラ〈相生・エベッロ、宍粟・佐用郡・エビ・エビナンゴ〉

まつかさ――マツカサ〈播磨西部・フグリ・ホーグリ、県東南・チンチロ〉

もみがら――スリヌカ〈相生・スクモ、県東南・スリヌカ、丹波・サラヌカ、北摂津・アラヌカ、播磨西部・スモク〉

とうもろこし――ナンバ〈相生・ナンバキビ、播磨西部・タカラキビ・トーキビ〉

かぼちゃ――ナンキン〈相生・ナンキン、淡路・トーナス〉
甘藷――サツマイモ〈神崎郡・カライモ、淡路南・リューキューイモ〉
馬鈴薯――ジャガイモ〈佐用郡・キンカイモ〉
里芋――コイモ〈宍粟・佐用郡・タイモ、県西部・エグイモ〉
落葉――カレバ〈相生・コクバ、多可郡・スイバ、神崎郡・バンバ〉
落松葉――コクバ〈美方郡・アカバ、小野・シバ〉
木の切り株――カブタ〈相生・カブ、宍粟郡・ホタ、出石郡・カブテン、県東南・カブテン〉
とげ（指にささる木や竹の細片）――ソゲ〈相生・ソゲ、県南部・クイ、美方郡・ハリ・クイ〉
とげ（バラなどの茎にある）――イバラ・ケン〈相生・グイ、県南部・ハリ、明石・ツコツコ、淡路北・イバラ・イボイボ〉

道具・生活類

井戸――ユド〈相生・佐用郡・ユツ、出石郡・ホリヌキ・ウチコミ、赤穂市・ホリヌキ〉
稲架――イナキ〈相生・ハゼ・ハデ、県東南・イナキ、宍粟・佐用・赤穂郡・ハゼ〉
かかし（案山子）――カガシ〈出石郡・ニンギョーノオドシ、赤穂郡・ニンゲンノオドシ、淡路北・スズメノオドシ〉
お手玉――イシナンコ〈相生・トンキ・イイチコ、養父・朝来郡・イシナゴ、宍粟・佐用・赤穂郡・オシト、県西部・オサラ〉
おはじき――メンコ・ジャラメ〈美方郡・ハジキコ、養父郡・オサラ、氷上・多紀郡・ベンチャラ、多可郡・ケッチンコ〉
片足とび――ケンケン〈相生・イッケンケン、佐用郡・ケンパ・イッケン、美方郡・チンガチンガ・チンガトンガ〉
肩車――カタクマ・カタウマ〈相生・カタクマ、県西南・テングルマ、宝塚・伊丹・チチクマ、美方郡・テングルマ・ダイブツ〉
竹馬――タケウマ〈相生・播磨・淡路・タケンマ、宍粟郡・タカシ・タカアシ、赤穂郡・サンヤシ〉
凧――イカタコ〈淡路北・イカノボリ・ノボリ、淡路南・ヨカンベ、県下広く・タコ・イカ〉
めんこ（子供の遊び道具カード）――パッチン〈相生・ケン・パッチン、県東南・ベッタン、播磨北・ベッタン・多可・加東郡・カエシ、美方郡・ゲンジ、宍粟郡・パン〉

涼台――ショーギ〈相生・ショーギ・ショーギダイ、佐用郡・エンダイ、多可郡・ベンゲ〉

すりこぎ――レンゲ〈相生・レンゲ・レンギ、淡路・レーギ〉

洗濯――センダク〈近畿一般・センダク、相生・竜野・淡路・センタク〉

田植休み――サナボリ・ネヤスミ（部落全体のもの）、ノヤスミ（個人的）〈相生・サナボリ（雨のための休みはノヤスミ）、県下広く・サナボリ、美方・養父郡・シロミテ〉

おひつ――オヒツ〈佐用郡・ハンボ、県下広く・オヒツとハンボを別物とする〉

小皿――オテシ〈相生・テショーザラ、播磨・テシオ〉

たわし――タワシ〈尼崎・ササラ、宍粟郡・アライゾーリ、赤穂市・サワダシ、県南部・キリワラ〉

まないた（俎板）――マナイタ・ウオマナイタ〈但馬・キリバン、出石町・ナキリ、美方郡・ナマイタ、淡路・ウオマナイタ〉

天秤棒――ニナイボー〈県下広く・ニナイボー、相生・オーコ、養父郡・ザルボー〉

陶磁器――セトモン〈県南部・セトモノ、宍粟郡・カラツモノ、相生市は東の瀬戸市と西の唐津市との中間にあるとの意識があり、昔、市内の店の看板にセトモノ店、カラツモノ店の両方があった〉

流し台――ハシリ・ハシリモト〈県南部・ハシリ、出石郡・ナガシ〉

襖――フスマ〈近畿一般・フスマ、佐用郡・カラカミ、相生では、一般にはフスマで、床の間のある部屋はカラカミ〉

へそくり――ヘソクリ・ナイショ〈明石・赤穂市・ナイショガネ、宍粟郡・マツボリ〉

湯気――ユゲ〈県下広く・ユゲ、出石郡・イゲ、宍粟・相生・ホケ〉

日時・天気類

大晦日――オーツゴモリ〈ツゴモリ〉　一日おき――イチニチハダメ〈イチニチハザメ〉　昨日――キンノ〈キニョー・キンニョー〉　一昨日――オトトイ〈オトトイ・オトツイ〉　明々後日――シアサッテ〈シアサッテ・シラサッテ〉　昨晩――ヨンベ〈ヨンベ・キノーノヨサ・キンノノヨサ〉　一昨晩――オトトイノバン〈オトツイノバン・オトトイノヨンベ〉　太陽――オヒサン〈オヒーサン〉　月――オツキサン〈オツキサ

ン・㊙マンマンサン〉　虹――ニジ〈ニンジ・ビョージ〉　夕立――ヨダチ〈シマケ〉　稲妻――ヨダチ〈ヒカヒカ〉　雷――ヨダチ〈㊙ゴーゴーサン〉　（雷が）落ちる――（ヨダチが）アマル〈オチル〉

つらら――ツララ〈ツズラ〉　凍る――（水・手拭）コール・（地面・大根）イテル〈コール〉

状態・数量類

明るい――アカルイ〈アカルイ・アカイ〉　大きい――オーケー〈ゴツイ・ゴッツイ〉　小さい――コマイ〈コマイ・チッチャイ〉　細かい――コマイ〈コマイ・コマカイ〉　みずくさい（味）――ミズクサイ〈アマイ・ウスイ〉　きな臭い――ヤグサイ〈キナクサイ・カンコクサイ〉　まぶしい――マバイ〈マバイイ〉　恐しい――オトロシイ〈コワイ・オトロシイ〉　くすぐったい――コソバイ〈クツバイ〉　良い――エエ〈エエ〉　きれいだ――キレイ・ウツクショイ〈キレイ〉　いくつ（物の数）――ナンボ〈イクツ〉　いくら（値段）――ナンボ〈イクラ〉　沢山――ギョーサン〈ギョーサン・ヨーケ〉　未だ――マダ〈マダ・マンダ〉　うらやましい――ウラヤマシイ〈ケナルイ・ケナリイ〉

人体・動作類

施毛――ギリギリ〈ツムジ・ギリ〉　ものもらい――メボ〈メバチコ・メイボ〉　まゆ毛――マイゲ〈マヒゲ〉　つば――ツワ〈ツバ・ツワ〉　霜焼――シモヤケ〈シモバレ〉　くすぐる――コソバカス〈コソバカス〉　捨てる――ホカス〈ホカス・シテル〉　貸す――カス〈カス・カセル〉　借る――カル〈カル・カリル〉　（大根）煮る――タク〈タク〉　いびき（を）かく――イビキカク〈イビキカク・ゴロタヒク〉　（咳を）する――タグル〈タグル〉　（うそを）言う――ツク〈ツク・タレル〉　（匂い）かぐ――（カザ）カス〈カグ・カゾム〉　痣（あざ）になる――シヌ〈シヌ〉　叫ぶ――ワメク〈オガル〉

五　文　献

当市の一部になっている旧・太市村の『太市村郷土誌』に「方言」の項がある。「緒言」によると太市尋常高等小学校教員の執筆によるもの。半紙二つ折判。毛筆書き。明治四十二年刊。「方言」の項見出し語一四五語。「名詞」の項に「蟬」その下段に「方言及訛音」とし「せび」と記すなど。同様に「動詞

その他」の項がある。これらの語について今回、三木七郎・犬塚豊・亀山ちえ子の三氏に現在どのように言うかをたずねた。以下、〔　〕が見出し語、平仮名が記されている「方言及訛音」で、その下の片仮名が三氏の現在での言い方である。

平仮名（当時の方言形・訛音）の下に――線を記したものは今回の三氏が現在、別の語形で答えたもの。‖線は当時の形と今回も同じとしたもの。平仮名の右下に＊印をつけたものは当時の仮名遣いの違いで実際の音は現在の発音と同じと考えられるもの。ただし、例えば、〔見ゆ〕めえる―メールとしたのは「めえる」が実際に、メ・エ・ルのようにエと発音したか、長音になったかが明らかでないため＊印を記し―線とした。‖線は、〔蟹〕がに‖ガニの片仮名部分を省略した形。

〔蝉〕せび―セミ　〔紙鳶（凧）〕いか―イカタコ　〔鞠〕まある―マリ　〔ざる〕ざりかご―ザル　〔燕〕つばくろ―ツバメ　〔魚〕さかな‖　〔葱〕ねぶか‖　〔きりぎりす〕げす―ギス　〔午旁〕ごんぼ‖　〔蛍〕ほうたる―ホータル　〔マッチ〕すりぜんこ―マッチ・ツゲキ　〔狐〕けつね‖　〔ランプ〕らんぽ―ランプ　〔蟻〕あいる―アリンコ　〔鉛筆〕えんべつ‖　〔蟹〕がに‖　〔金平糖〕こんぺと‖　〔ご馳走〕ごっぞう―ゴッツォー　〔父〕おとっさん―オトッツァン　〔母〕おかあ―オカァ　〔蛙〕がへる*―ガエル　〔角力〕すもん‖　〔拓榻〕じゃくろ‖　〔徳利〕とっくり‖　〔鰻〕おなぎ‖　〔草履〕じょり―ジョーリ　〔草鞋〕わるじ―ワラジ　〔絵馬〕ゑんま*―エマ　〔身体〕かだら‖　〔繭〕まい‖　〔指〕いべ―ユビ　〔煙草〕たばこ‖　〔獣〕けだもの‖　〔雷〕よだち‖　〔姉〕ねいやん―ネーヤン　〔兄〕にーやん・あんにゃ‖　〔いただき〕てんだい‖　〔看板〕かんば―カンバン　〔木綿〕もんめん―モメン　〔褌子〕しす‖　〔もみがら〕すりぬか‖　〔風呂敷〕ふるしき‖　〔唐箕〕とみ―トンミ　〔石炭〕ごえだ―コエダ　〔誰〕だれ‖　〔蕈〕すみれとりばな―スミレ　〔つつぢ〕つづき―ツツジ　〔粒〕つぼ―ツブ　〔遠方〕とをーい*―トオーイ　〔貧〕びんぼ‖　〔晩〕ばんげ‖　〔家〕えー‖　〔鳥居〕とりい‖　〔私〕わたし・あたえ・をら・わし―ワタシ（女・アタエ）・オラ・ワシ　〔君〕あんた・われ‖　〔小便〕しょんべん‖　〔停車場〕すてんしょ―エキ　〔大根〕だいこ―ダエコ　〔桝〕まーす―マス　〔衡（はかり）〕ちんぎ‖　〔掘〕ねいれ―ネヒレ・ネシレ　〔着物〕きりもの―キリモン　〔帽子〕しゃっぽ‖　〔蝶〕ちょこ―チョーチョ　〔蒲公英〕たんぽこ―タンポポ　〔めだか〕こめん―メダカ　〔ぞうきん〕ぞっきん―ゾーキン　〔或

日〕いっちゃしらん＝　〔雪達磨〕ゆきだま—ユキダルマ
〔玄関〕げんか—ゲンカン　〔佛〕ほっときさん—ホトケサン
〔筒袖〕てっぽう—ツツソデ　〔飯〕まま＝　〔猟師〕てっぽかた—リョーシ

動詞其他

〔綺麗〕きれんな—キレーナ　〔大きい〕おほけい*—オーケー　〔小さい〕こまい—コマイ・コンマイ　〔沢山〕じょうさん—ギョーサン　〔目出度〕めれたい—メデタイ　〔強情〕じょうばり—ゴージョー　〔賑日〕にんやか＝　〔込合ふ〕せこむ—コミアウ　〔大層〕どうらい—どえらい・ドーライ　〔暖い〕ぬくい＝　〔恐しい〕こわい＝　〔なさる〕しゃがる・がやく—シャーガル・〔何〕ガヤル　〔です〕だす＝　〔何を言いなさる〕何いやがる・何ぬかす＝　〔あのね〕あのな＝　〔何です〕何じゃ—㊀何ジャ・㊁何ヤ　〔買ってもらった〕こーてもろた＝　〔何しています〕何しとる＝　〔御覧なさい〕見いやい*—ミーヤイ　〔直しなさい〕直さんかいやい＝　〔直りましたか〕直ったかいやい—ナオッタカ　〔乗っている〕乗っとる＝　〔見ゆ〕めえる*—メール　〔久しい〕へっさ・せんど＝　〔被る〕かつぐ—カブル　〔擔ぐ〕になふ*—ニナウ　〔昨日〕きんにょ—キンノー　〔飛ぶ〕たつ＝　〔むやみ〕むちゃ＝　〔いいえ〕いいや*—イーヤ　〔出来る〕でける＝　〔帰える〕もどる＝　〔大てい〕大がい＝　〔どんなに〕どないに＝　〔驚く〕びっくり＝　〔余程〕よっぽど＝　〔せんかたなし〕しかたがない—シカタ（ガ）ナイ　〔なぜ〕なんで＝　〔常〕あいだ＝　〔互〕どっちゃも＝　〔敷く〕ひく＝　〔あちら〕＝　〔拾うて〕ひろて＝　〔せう（……でしょう）〕だらう*—ダロー　〔じゃれる〕ばえる＝　〔いつも〕いっつも＝　〔すぐ〕じき＝　〔向こう〕むこ＝　〔つっく〕こづく*＝　〔こみあう〕せせこむ—コミアウ　〔急に〕いっきに＝　〔ころがる〕ころぶ—コケル　〔よこす〕おこす＝　〔あそこ〕あっこ＝　〔一面に〕いったいに＝　〔おかえりなさい〕いになさい＝　〔そねむ〕にくむ＝　〔お前さん〕おまはん　〔うまく〕あんじょう・あんばよう*＝　〔それですから〕そやさかい　〔そして〕ほいで＝　〔倒れる〕こける＝　〔はじめ〕のっけ—ハジメ　〔いつころ〕とんと＝　〔少し〕ちょびっと＝　〔つめたい〕ちめたい＝　〔しなさい〕しないな＝　〔ひばり〕ちんちくろ＝　〔そこ〕ほこ＝

六　動態調査

A調査――市立白鷺中学校と大的中学校とで「文法」と「語彙」の調査

B調査――市立東光中学校と山陽中学校とで「場面」と「語彙」の調査を行った。

方言には、同一地点ではすべて同じことばを使っているということを前提とする立場があるが、もう一つ、ことばは絶えず動いているということがある。ことばは常に変化しつつあるというのである。特に、都市部における若い層ではたえずことばが動いているのが実状である。

「表A」に示す1～43は、標準語形をを示し、それに対する中学生の使用形をパーセントであらわした。

各中学校とも二年生または三年生一クラスの男女計、約四十名についてのものである。が、居住歴、両親の出身地の遠隔の者を除いたので、男女計四十名以下の場合もある。

これについて簡単な説明を記す。

1・2におけるカカン・フランなどヘンに対しンの否定は岡山に多いものであるが、特に大的中学に多くあらわれている。

カケヘン・フレヘンのエ段にヘンのつく形も大的中学の方が多い。この「エ段＋ヘン」の形は但馬に多くあらわれる形である。

現在、岡山にある形は少し前まで姫路にもあった形、現在、但馬にある形は少し前まで姫路にもあった形と考えられる。即ち、大阪・神戸的なものが東から次第に押しよせて来ている。姫路にあった「ン」や「エ段＋ヘン」が、大阪・神戸形の「ヘン」や「カカヘン」形の波によって押し出され大阪・但馬の方へ行こうとしている。このことから白鷺中学の方が、より大阪・神戸化が進んでいるように見える。

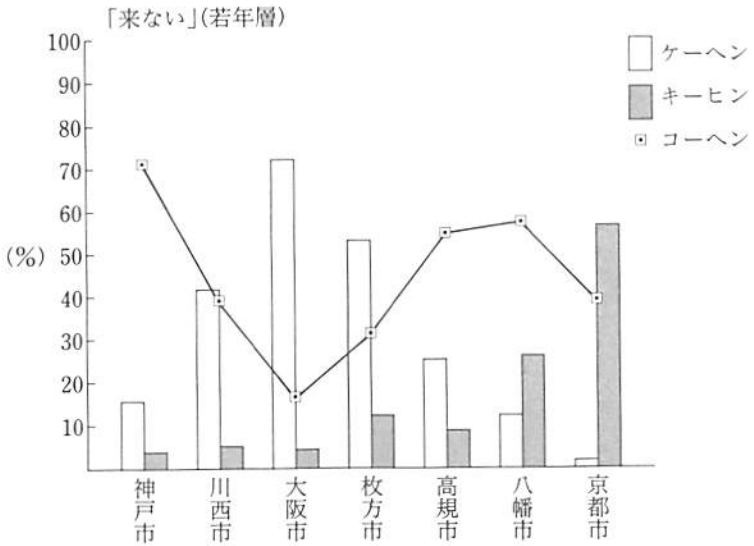
3・4「着ない」「起きない」の否定で、白鷺中学のキーヒン・オキヒンがキーヘン・オキヘンよりも多いことが目立つ。ヘンは、古くは「セヌ」でsenuが摩擦音同士の変化でsがhになり、ヘンhenとなったものである。（s―h交替は大阪でオバサン――オバハン・ナサル――ナハルなど多い）そして、ヘンがヒンになるのは、前にある動詞の語幹末尾がi音のもの（着ki　起きoki）による順行同化でokihenが前のiに同化されてeがiになった（okihin）ものである。

4・5のオキラヘン・ネラヘンは大的中学に多い形であるが、「起きる・寝る」の一段活用動詞がラ行五段活用化しようとす

るものである。これは県下ばかりでなく全国に広くある傾向であり、特に関西には多い。見ナイ――見ラヘン、受ケナイ――受ケラヘンなど。この「表」で見る限り白鷺中学よりも大的中学の方にやや多いようだ。このような現象についてごく一般的な言い方をすれば「学校ことば」というものがあって、校区（学区）によって変り、これと地域差によるものと区別することが難しいことがある。

6「来ない」コーヘンが圧倒的多数である。白鷺中学にケーヘンがいくらかある。先に白鷺中学の方が、大阪・神戸化していると言ったが、大阪などのケーヘンであった地域にも最近コーヘンが広がって来ているようだ。これについて真田信治氏は次のように記している。

「コーヘン」の形は、兵庫県の播州地方や滋賀県の湖北地方などではかなり古くから存在していたようであるが、これらの地方では、打消の助動詞にンも併用されるので、その接続形「コン」の形への類推があって生まれたものと推測される。しかし、神戸市や京都市の「コーヘン」がこれら周辺の方言からの流入によったものだとするのはやや不自然のように思う。これら関西中央部における「コーヘン」は、やはり標準形式「コナイ」の干渉を受けて新しく成立したものと考



真田信治氏『言語生活429号』より

えたい。……大阪でこの「コーヘン」があまり普及せず、「ケーヘン」が比較的強く維持されているのは、この地の言語面での保守性を示すというより、この方言ではヘンが助詞につくときエ段に接続するのが一般であることと関係しているのではないか。(『言語生活　四二九号』)

12「会った」アータ、13「洗った」アラータは但馬にある形で、白鷺中学のこの二つは同一人物かと思われるが今回は省いた。

14「買った」は大的中学の女子全員がカッタであるのに白鷺中学の女子は二十パーセント。これも「学校ことば」のようなものか。

15略音便とも言われているオモタ。これは促音便にならず促音を落とした形で、行って——イテ、食って——クテ、持って——モテなど大阪に多い形で、語幹が一音節のものに多くあらわる。ただし、酔って、縫ってなどはならない。両校とも約半数あることになる。

16「傘をさして」をサイテというサ行イ音便形があるかをたずねたものであるが、両校ともこの形はない。赤穂市、相生市の成人にはかなりサイテの形があった。

17先に「着ない」で記した否定助動詞ヒンを用いる。デキヒンの形は白鷺中学に多い。相生中学でもこれは五十二%(男)、四十七%(女)と約半数になっている。数の上でこれに対する形はデケヘンであるが、大的中学でこの形の方が多い。また、ンで否定する形も大的中学に多い。

19「来ることができない」という条件不可能形であるがコレヘンが圧倒的に多い。18・19で、オキラレヘン——オキレヘン、コラレヘン——コレヘン　即ち、ラレヘン——レヘンの関係では、(起)はラレヘンが多く、(来)はレヘンの方が多い。これは、起キレルという形よりも、来レルという形の方が多く用いているからであろう。

20「あの子は幼いから〝書くことができない〟と言うことをふつうどのように言いますか」という形で示した。即ち、「能力不可能」である。これはヨーカカンである。似た形のヨーカカヘン形はなかったが、相生中学の女子で二十%、赤穂中学の男女ともそれぞれ二十四%あった。

21「手が痛くて〝書くことができない〟と言うことをふつうどのように言いますか」と、「状況不可能」をたずねた。両校ともカケヘンである。能力のカケヘンが白鷺中学に十三%あるのでこれはどうなるのだろうか。カケンも重なるところがある。

22「赤くなる」と23「明るくなる」赤穂市で昭和三十年頃、

この二つがアカナルで同音衝突するといわれていたものである。「西の空が――」など。

赤穂中学では次のようになっている。

	「赤」		「明」		
	男	女	男	女	
アカ（―）ナル	22	22	5	9％	
アコ（―）ナル	73	73	30	31％	

姫路市では「赤」をアカナル、「明」をアカルナルで区別しているようだ。

25「長くなる」姫路ではナガ（―）ナルが多い。相生、赤穂の状況は次のようにナガ（―）ナル対ナゴ（―）ナルの関係が逆になっている。

	相生中		赤穂中	
	男	女	男	女
ナガ（―）ナル	60	90	32	22％
ナゴ（―）ナル	35	10	68	77％

29「着させる」使役助動詞ス・サスとセル・サセルをつける形がある。五段活用は28「書かせる」カカスが多いが、着サス・着セル・着サセルの三つに「表」に見るようなバラつきがある。さらにラ行五段化して着ラス・着ラセルの形も多い。

31「書けば」32「来れば」でカキャ・クリャの形は姫路には殆どないが、赤穂中学は男子でカキャ十七％、クリャ二十％となっている。赤穂の成人はもっと多いはずである。

34「お書きになる」は、「先生が字を――」の形で示したのであるが、最近の中学生はあまり敬語を使わないので困っていたようである。それで、「つつある」意の継続態で答えたようである。カキヨル・カイトル・カッキョーなどがそれである。一般にカカハルは京都、カキハルは大阪といわれるが、ここにもカカハルがいくらか見られる。

39「行くか」のイクカが大的中学の男子にこれほど多いのは、この辺りの成人にはもっと多いのであろうと考えられる。

41「借りて」は、関東「借リル・借リタ」、関西「借ル・借ッタ」といわれていたが、今や、中学生は関東式の「借リテ」になったと見てよいのだろうか。

44は、カタカナの部分を（　）内の意で、このことばを「使う」「使わないがよく聞く」「聞かない（使わない）」のいずれかを示してもらった。

①ねじがアホーになっている（効かなくなる）。②そんなアホクサイことできるものか（馬鹿馬鹿しいこと）。③この計算はジャマクサイ（面倒くさい）。④あの人はシンキクサイ人だ

（思うようにならず気がいらいらする）。⑤そんなことアホラシューモナイ（ばからしいの強調）。⑥いつもセワシナイ人だ（気ぜわしい、忙しい）。⑦明日も来てくれてもダンナイ（さしつかえない、かまわない）。⑧ちょっところんだけれどベッチョナイ（異常ない）。⑨お礼を言われるなんてメッソモナイ（とんでもない、いえいえどういたしまして）。⑩あの人はエゲツナイ人だ（ひどい）。⑪走ってきたのでシンドイ（疲れる、困る）。⑫話がヤヤコシイ（こみいった、面倒だ）。⑬今日はヌクイ（暖かい）。⑭文句を言ってゴテル（ごたつく、ごたごたする）。⑮石につまづいてコケル（倒れる、ころぶ）。

これらは大阪弁と言われているものであるが、その浸透度を調べるものである。

最後に、指定助動詞　ダ・ジャ・ヤのいずれを使うかをソーダ・ソージャ・ソーヤで調査した。結果、両校ともヤである。岡山県はジャであるから赤穂中学はヤ（男68・女94％）、ジャ（男26・女6％）と姫路にくらべるとジャもやや多くなる。〈ダ・男6％〉

なお、①～⑮で、同じクラスにいながら一方で「使う」があり一方に「聞かない」があるのはおかしいと思うが、これが「動態」というものだろうか。

B調査

「表B」の「イ1～4」、「ロ1～10」は場面調査。以下、語彙調査である。

「イ1・値段」

「近所の店で物の値段をたずねるとき、「いくら」と聞きますか、「なんぼ」と聞きますか。」――「近所」

「大阪（東京）へ行って、店で物の値段をたずねるときはどうですか。」――「大阪（東京）」

東光・山陽両中学とも「近所（の店で）」はナンボが多く、男子で八十％、女子で六十％前後。両校とも男子はナンボを使い、女子はイクラを使うことが多い。山陽中学の女子は「大阪」「東京」ともイクラである。実はナンボは、いわゆる大阪弁といわれているものである。が、両校とも地元ことばという意識からか大阪へ行ったときも改まった言い方としてイクラを使うのであろう。

「イ2・捨てる」

「いらなくなった物をごみ箱に『捨てる』ことをふつうどのように言いますか」――「普通」

「大阪（東京）の人に対してはどのように言いますか」―

―「大阪（東京）」

ホカスを地元のことばと考えるが、東光中学女子は大阪でステルが七十八％、東京では百％になる。反対にホカスは山陽中学女子で、「普通」八十％、大阪ではその半数四十％になり東京で十五％となる。

「イ3・降っているから」

「『雨が降っているから、行くのはやめろ』というとき、『降っているから』のところをふつうどのように言いますか」

フッテイルカラとフッテルカラなどを含む形。フットルカラとフットーカラなどを含むものの二形に分かれる。テイル対トルである。テイル形をあらたまり形。トル形を地元形とするものである。山陽中学女子で「普通」トル九十五％であるのに対し、「東京」はテル八十五％となる。

「イ4・いたよ」

「あなたのお母さんが、校長先生をさがしているとします。そのとき『さっき、あそこにいたよ』と教えるとしたら『いたよ』のところをどのように言いますか」――「校長」

「近所の年上（年下）の人を探しているとします……」――「年上（年下）」

中学生は敬語をあまり使わないようである。オラレタ・オッテヤッタという敬意のある形は少ない。イタヨとオッタヨではイタヨをていねいな形としていることがわかる。

「Bロ」の場面調査

「以下の項目では、（a）親しい友人と話すときと、（b）見知らぬ東京の人と話すときのそれぞれに分けて答えて下さい」

「Bロ1・2」

両校とも（友人）（東京）とも同形であることが多いが、「塩や海水の味」の東光中学女子（友人）にはショッパイ六十％に対し（東京）はシオカライが七十％になっている。

「Bロ3」――「わきの下や足の裏をさわられると」――「くすぐったい」

コソバイを地元形、クスグッタイを東京形と考えていることがわかる。

「ロ4」――「時計を」はハメル・スル・ツケルの三形が同じ程度に使われている。

「ロ5」――「蚊に」当地ではササレタの形であるが、カマレタもかなりある。これはもともと当地でカマレタが本来の形で、最近、若い者にササレタの形が新しく入って来たものと考えられる。

「ロ6」――線をひいたり、長さをはかったりする道具。プラスチック製で15～20センチぐらい。
「ロ7」――紙をかべなどに、はりつけるための道具。
「ロ8」――ホッチキス（紙をとじる道具）の中に入れるもの。
「ロ9」――土いじりをする時に使うもの。地面に穴をほる道具。長さは25センチぐらい
「ロ10」――かけっこ（走り競争）の時、一番最後にゴールインする人のこと。

ビリを（友人）にも使うが、これは、あらたまった形か、新しい形とみられる。ゲットー・ゲベが当地としての本来の形とみる。

以下、B調査の語彙は前田勇著『大阪弁の研究』、楳垣実著『京言葉』の中から選んだものである。

「あなたが、ふだんお使いになっていることばについてお聞きしたいと思います。次のようなことばを、お使いになるか、どうか、次の三つの中から選んで下さい。1、使う。2、自分は使わないが聞いたことはある。3、使わない（聞いたこともない）

以下の結果は、東光・山陽の両中学校一クラスずつを合計してパーセントで男女別を示した。

両中学校とも「使う」の多いものをあげれば次の通りである。

「使う」　ヨーケ（たくさん・おおぜい）・（手袋を）ハク・メバチコ（ものもらい）・ペケ（×印・バツ・ばってん）・キツイ（きびしい）・スコイ（ずるい）・ナオス（かたずける）・ヌクメル（あたためる）

中学生が「使う」ということは将来もこの語は栄えていくものである。反対に「使わない（聞いたこともない）」という語は将来、衰えていく語と考えられる。

「聞かない」オジャミ（お手玉）、ソゲ（木片のとげ――手にささる）、エーシ（お金持）、オトンボ（末っ子）、（手袋を）サス、（傘を）キル、カタゲル（材木を肩にかつぐ）、ヤッス（おしゃれ）、ネキ（そば）、ツズクル（修繕する）、モムナイ（まずい）、ニヌキ（ゆでたまご）、ニナウ（てんびん棒でかつぐ）、アンジョー（ちゃんと・うまく）、コソボル（くすぐる）、ズツナイ（切ない、つらい、苦しい）、ダイジナイ（さしつかえない）

これらは、それに代わる標準語形式があるからか、他の方言形式になるかであろう。

[表A]

語形	白鷺中		大的中	
	男	女	男	女
6 来ない	%	%	%	%
コーヘン	69	79	80	80
コエヘン	0	0	5	0
コヤヘン	0	0	5	0
キヤヘン	0	4	5	14
キーヘン	0	0	0	6
キーヒン	4	4	0	0
ケーヘン	12	4	5	0
コナイ	15	9	0	0
7 勉強しない				
セーヘン	78	82	70	88
シーヘン	5	9	0	0
シヤヘン	0	0	25	12
シナイ	17	9	5	0
8 痛くない				
イタナイ	70	71	90	100
イトナイ	0	5	5	0
イトーナイ	5	0	0	0
イタクナイ	25	24	5	0
9 書こう				
カコー	48	70	75	75
カ　コ	52	30	25	25
10 起きよう				
オキヨー	95	100	95	88
オキヨ	5	0	0	6
オキロー	0	0	5	6
11 受けよう				
ウケヨー	100	100	100	100
12 会った				
オータ	77	86	75	94
アッタ	23	14	25	6
13 洗った				
アロタ	77	74	67	81
アロータ	0	4	19	19
アラッタ	23	22	14	0

語形	白鷺中		大的中	
	男	女	男	女
1 書かない	%	%	%	%
カカヘン	95	85	48	65
カケヘン	0	0	17	5
カカン	0	5	26	30
カカナイ	5	10	9	0
2 降らない				
フラヘン	78	70	43	47
フレヘン	4	17	17	16
フラン	9	4	27	37
フラナイ	9	9	13	0
3 着ない				
キーヘン	17	27	5	12
キーヒン	50	41	0	24
キヤヘン	0	0	25	30
キ　ン	4	4	0	0
キラヘン	8	14	45	24
キラン	0	0	20	10
キナイ	21	14	5	0
4 起きない				
オキヘン	4	21	14	7
オキヒン	73	61	29	53
オキラヘン	0	0	19	13
オキラン	0	0	14	7
オキン	9	9	19	20
オキナイ	14	9	5	0
5 寝ない				
ネーヘン	81	81	35	88
ネラヘン	5	0	35	6
ネラン	0	0	20	6
ネヤヘン	0	5	0	0
ネ　ン	9	0	0	0
ネナイ	5	14	10	0

語形	白鷺中		大的中	
	男	女	男	女
20 (能力)書く	%	%	%	%
ことができない				
ヨーカカン	76	68	80	94
ヨーカケヘン	0	9	0	0
エーカカン	0	5	0	0
カカレヘン	5	0	0	6
カケヘン	0	13	0	0
カケン	0	0	5	0
カケナイ	19	5	15	0
21 (状況)書く				
ことができない				
カケヘン	84	63	62	82
カケーヘン	0	5	0	0
カケン	8	9	14	0
カケレヘン	0	18	9	6
カケラン	0	0	5	6
カカレヘン	0	5	5	6
カケナイ	8	0	5	0
22 赤くなる				
アカナル	39	48	45	57
アカーナル	30	4	25	31
アコナル	4	10	0	6
アコーナル	4	14	0	6
アカクナル	23	24	30	0
23 明るくなる				
アカルナル	35	40	70	62
アカルーナル	18	15	5	19
アカナル	4	10	0	13
アコナル	4	0	0	0
アコーナル	0	5	5	0
アカルクナル	39	30	20	6
24 良くなる				
ヨーナル	65	80	60	88
エーナル	5	0	0	0
ヨクナル	30	20	40	12

語形	白鷺中		大的中	
	男	女	男	女
14 買った	%	%	%	%
コータ	77	80	85	0
カッタ	23	20	15	100
15 思った				
オモータ	14	15	23	19
オモタ	48	40	48	69
オモッタ	38	45	29	12
16 傘をさして				
サシテ	100	100	100	100
17 できない				
デキヘン	7	16	5	11
デキヒン	44	44	14	11
デキン	5	6	29	33
デケヘン	37	28	29	33
デケン	0	0	5	6
デキラン	0	0	9	6
デキナイ	7	6	9	0
18 起きること				
ができない				
オキラレヘン	46	41	33	35
オキラレン	17	5	33	41
オキレヘン	21	45	5	18
オキレン	12	9	19	6
オキラレナイ	4	0	10	0
19 来ることが				
できない				
コレヘン	64	90	60	73
コレーヘン	8	0	5	7
コレン	0	0	10	0
コラレヘン	8	10	15	13
コラレン	0	0	5	0
キラレヘン	4	0	0	7
キヤレヘン	0	0	5	0
コレナイ	8	0	0	0
コラレナイ	8	0	0	0

語形	白鷺中		大的中	
	男	女	男	女
31 書けば	%	%	%	%
カイタラ	59	67	57	88
カキャー	0	5	5	12
カクト	5	5	0	0
カケバ	36	23	38	0
32 来れば				
キタラ	76	85	76	94
クリャ	0	0	5	6
クルト	0	5	5	0
クレバ	24	10	14	0
33 起きよ				
オ　キ	9	19	5	5
オキー	22	24	35	51
オキヨ	14	52	20	44
オキレ	0	0	15	0
オキロ	55	5	25	0
34 お書きになる				
カカハル	16	10	0	6
カキハル	16	29	37	19
カキナサル	47	14	26	19
カカレル	5	14	22	13
オカキニナル	11	29	5	25
カキヨッテ	0	4	0	0
カキヨル	0	0	5	6
カイトル	5	0	5	0
カッキョー	0	0	0	12
35 行かなかった				
イカナンダ	9	9	5	7
イカヘンカッタ	44	68	15	40
イカンカッタ	38	18	65	53
イカナカッタ	9	5	15	0
36 行かなければ				
イカナ	0	9	9	7
イカナンダラ	14	5	5	0
イカヘンカッタラ	50	36	29	33
イカント	0	0	14	7
イカンカッタラ	32	45	38	53
イカナケレバ	4	5	5	0

語形	白鷺中		大的中	
	男	女	男	女
25 長くなる	%	%	%	%
ナガクナル	68	48	70	47
ナガーナル	5	9	5	18
ナゴナル	5	22	15	24
ナゴーナル	13	13	5	11
ナガクナル	9	8	5	0
26 楽しくなる				
タノシナル	59	55	60	81
タノシーナル	14	15	10	19
タノシューナル	0	5	0	0
タノシクナル	27	25	30	0
27 無くなる				
ナーナル	0	5	0	0
ノーナル	22	5	10	12
ナクナル	78	90	90	88
28 書かせる				
カカス	55	34	75	87
カカサス	4	7	0	0
カカセル	32	54	10	13
カカサセル	9	5	15	0
29 着させる				
キサス	30	55	24	54
キセル	23	9	24	13
キラス	17	0	29	7
キラセル	0	9	9	13
キサセル	30	27	14	13
30 寝させる				
ネサス	38	52	35	20
ネセル	4	4	0	0
ネラス	21	0	25	53
ネラセル	8	4	15	13
ネカス	4	0	5	7
ネカセル	0	4	0	0
ネサセル	25	36	20	7

語形	白鷺中		大的中	
	男	女	男	女
44 ①アホーになる	%	%	%	%
使う	19	8	10	6
聞く	33	40	20	31
聞かない	48	52	70	63
②アホクサイ				
使う	62	60	35	32
聞く	38	40	55	56
聞かない	0	0	10	12
③ジャマクサイ				
使う	76	85	65	94
聞く	19	15	25	6
聞かない	5	0	10	0
④シンキクサイ				
使う	5	15	0	0
聞く	52	60	45	31
聞かない	43	25	55	69
⑤アホラシューモナイ				
使う	5	15	0	0
聞く	45	30	40	25
聞かない	50	55	60	75
⑥セワシナイ				
使う	5	16	0	18
聞く	40	58	35	44
聞かない	55	26	65	38
⑦ダンナイ				
使う	0	0	5	0
聞く	10	5	5	37
聞かない	90	95	90	63
⑧ベッチョナイ				
使う	33	15	55	44
聞く	62	85	41	56
聞かない	5	0	4	0
⑨メッソモナイ				
使う	24	5	0	6
聞く	71	90	85	63
聞かない	5	5	15	31

語形	白鷺中		大的中	
	男	女	男	女
37 行きたくなる	%	%	%	%
イキトナル	0	15	10	5
イキトーナル	10	5	5	25
イキタナル	14	0	35	25
イキターナル	14	10	5	32
イキタクナル	62	70	45	13
38 行くから				
イクヨッテ	0	5	0	6
イクサカイ	0	5	5	0
イクカラ	100	90	95	94
39 行くか				
イクカ	84	65	60	50
イクケ	8	0	0	6
イクコ	4	0	30	0
イク	4	35	10	44
40 行かねばならない				
イカナアカン	62	60	60	63
イカナナラン	10	0	20	13
イカンナラン	18	15	5	0
イカンカッタラアカン	0	0	0	6
イカンナン	0	0	0	6
イカントアカン	0	0	0	6
イカナキャナラン	0	5	5	0
イカネバナラナイ	10	20	10	6
41 借りて				
カリテ	95	100	90	69
カッテ	5	0	10	31
42 降るから				
フルカラ	95	90	80	94
フルサカイ	5	10	20	6
43 入れ物ごと				
ゴト	90	95	95	100
ゴシ	5	5	0	0
ナリ	5	0	5	0

語　　形	白鷺中		大的中	
	男	女	男	女
⑩エゲツナイ	%	%	%	%
使　う	45	42	33	69
聞　く	55	53	57	31
聞かない	0	5	10	0
⑪シンドイ				
使　う	95	100	86	100
聞　く	5	0	14	0
聞かない	0	0	0	0
⑫ヤヤコシイ				
使　う	81	95	76	81
聞　く	14	5	19	19
聞かない	5	0	5	0
⑬ヌクイ				
使　う	90	75	71	100
聞　く	10	15	29	0
聞かない	0	10	0	0
⑭ゴテル				
使　う	9	10	20	19
聞　く	29	35	35	50
聞かない	62	55	45	31
⑮コケル				
使　う	95	95	95	100
聞　く	0	5	5	0
聞かない	5	0	0	0
ソーダ	4	5	10	0
ソージャ	10	10	15	0
ソーヤ	86	85	75	100

〔表Bイ〕

		東光中			山陽中		
1 値段		(近所)	(大阪)	(東京)	(近所)	(大阪)	(東京)
イクラ	男	18	18	65	17	44	82
	女	44	50	95	40	95	95
ナンボ	男	82	77	30	80	53	15
	女	56	50	5	60	5	5
ナンエン	男	0	5	5	3	3	3
	女	0	0	0	0	0	0
2 捨てる		(普通)	(大阪)	(東京)	(普通)	(大阪)	(東京)
ステル	男	36	48	84	55	68	85
	女	44	78	100	20	60	85
ホカス	男	60	48	12	45	32	15
	女	56	22	0	80	40	15
ホル	男	4	4	4	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0
3 降っているから							
フッテイルカラ	男	5	35	76	0	26	63
(フッテルカラ)	女	5	22	78	0	60	85
フットルカラ	男	95	65	24	100	69	32
(フットーカラ)	女	95	78	22	95	30	15
フリヨルカラ	男	0	0	0	0	5	5
(フリヨーカラ)	女	0	0	0	0	5	0
フッテルデ	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	5	5	0
4 いたよ		(校長)	(年上)	(年下)	(校長)	(年上)	(年下)
オラレタヨ	男	12	0	0	10	0	0
(イラッシャッタヨ)	女	6	6	0	15	0	0
オッテヤッタヨ	男	6	6	0	0	0	0
(オッタッタヨ)	女	6	0	0	10	10	0
イタヨ(デ)	男	0	6	0	16	26	15
	女	6	16	0	10	15	15
オッタヨ(デ)	男	82	88	100	74	74	85
	女	82	78	100	65	75	85

[表Bロ]

		東光中		山陽中	
		(友人)	(東京)	(友人)	(東京)
1 夏みかん		%	%	%	%
スイ	男	0	4	0	15
	女	0	5	0	5
スイイ	男	0	0	0	0
	女	5	0	0	5
スッパイ	男	96	96	95	85
(スッペー)	女	95	95	100	90
ショッパイ	男	4	0	5	0
	女	0	0	0	0
2 塩・海水					
カライ	男	5	5	15	15
	女	28	26	20	25
シオカライ	男	25	54	21	32
	女	12	70	15	45
ショッカライ	男	0	5	0	0
	女	0	0	5	5
ショッパイ	男	70	36	64	53
	女	60	4	60	25
3 くすぐったい		%	%	%	%
コソバイ	男	65	56	85	42
	女	78	50	75	60
コショバイ	男	30	18	10	5
	女	22	0	20	5
クスグッタイ	男	5	26	5	53
	女	0	50	0	35
クスバイ	男	0	0	0	0
	女	0	0	5	0
4 時計を					
ハメル	男	24	35	58	68
	女	60	40	20	30
スル	男	24	18	21	10
	女	20	20	60	45
ツケル	男	52	47	21	22
	女	20	40	20	25

5 蚊に					
ササレタ	男	70	76	75	80
	女	67	88	65	65
カマレタ	男	30	24	25	20
	女	33	12	35	35
6 定規					
ジョーギ	男	100	100	100	90
	女	100	85	95	80
センヒキ	男	0	0	0	10
	女	0	5	0	5
モノサシ	男	0	0	0	0
	女	0	10	5	10
サシ	男	0	0	0	0
	女	0	0	0	5
7 面びょう					
ガビョウ	男	35	35	32	42
	女	12	33	10	15
オシピン	男	65	65	68	58
	女	88	67	90	85
8 ホッチキスの					
タマ	男	18	18	16	10
	女	0	0	5	0
ハリ	男	35	29	0	0
	女	22	17	0	10
シン	男	47	53	84	90
	女	78	83	95	90
9 シャベル					
シャベル	男	0	5	5	10
	女	0	15	0	15
スコップ	男	95	90	95	90
	女	100	85	95	85
イショクゴテ	男	5	5	0	0
(その他)	女	0	0	5	0
10 ビリ					
ビリ	男	40	65	55	85
	女	50	82	70	90

ピリケツ	男	5	10	0	0
	女	6	6	0	0
ドンジリ	男	0	5	0	10
	女	0	0	5	0
ドベ	男	0	0	5	5
	女	0	0	0	0
ベベ	男	5	0	0	0
(ベベタ)	女	0	0	5	0
ケツ	男	15	5	10	0
(ドンケツ)	女	6	0	0	0
ゲットー	男	35	5	15	0
(ゲッツ)	女	16	6	10	0
ゲベ	男	0	0	15	0
(ゲビ)	女	6	0	5	0
サイゴ	男	0	10	0	0
	女	16	6	5	10

語形（意味）	（山口中 東光中）	使う	聞く	聞かない
キバル（がんばる）	男	22	64	14
	女	24	66	10
イチビル（調子にのってさわぐ）	男	40	28	32
	女	45	25	30
アンジョー（ちゃんと・うまく）	男	0	30	70
	女	5	32	63
コソボル（くすぐる）	男	0	12	88
	女	0	24	76
カントダキー（煮込み）おでん	男	62	30	8
	女	45	45	10
ナンバ（とうもろこし）	男	4	22	64
	女	5	18	77
ペケ（×印・バツ・ばってん）	男	90	10	0
	女	100	0	0
キツイ（きびしい）	男	75	20	5
	女	93	7	0
ケッタクソワルイ（いまいましい）	男	14	48	38
	女	22	55	23
スコイ（ずるい）	男	53	33	14
	女	55	38	7
ズツナイ（切ない・つらい・苦しい）	男	5	23	72
	女	13	22	65
ダイジナイ（さしつかえない）	男	0	37	63
	女	2	22	76
ナオス（かたづける）	男	67	11	22
	女	60	27	13
ナキミソ（泣虫）	男	30	23	47
	女	28	34	38
ヌクメル（あたためる）	男	90	3	7
	女	90	10	0
ワヤ（だめ・むちゃくちゃ）	男	30	50	20
	女	30	50	20

語形（意味）	（山口中 東光中）	使う	聞く	聞かない
ヤッス（おしゃれ）	男	0	2	98
	女	0	2	98
ネキ（そば）	男	0	0	100
	女	0	7	93
メバチコ（ものもらい）	男	95	5	0
	女	98	2	0
ツズクル（修繕する）	男	0	2	98
	女	0	10	90
モムナイ（まずい）	男	0	0	100
	女	0	2	98
ニヌキ（ゆでたまご）	男	0	2	98
	女	0	5	95
オジャミ（お手玉）	男	0	15	85
	女	3	16	81
ソゲ（木片のとげ―手にささる）	男	15	25	60
	女	0	15	85
エーシ（お金持）	男	0	14	86
	女	2	6	92
オトンボ（末っ子）	男	0	12	88
	女	2	6	92
ギョーサン（たくさん・おおぜい）	男	33	47	20
	女	40	60	0
ヨーケ（たくさん・おおぜい）	男	81	17	2
	女	82	18	0
（手袋を）ハクー（手袋を）はめる	男	68	14	18
	女	53	42	5
（手袋を）サスー（手袋を）はめる	男	5	5	90
	女	0	2	98
（傘を）キルー（傘を）さす	男	3	5	92
	女	2	2	96
カタゲルー（材木を肩に）かつぐ	男	0	14	86
	女	0	24	76
ニナウー（てんびん棒で）かつぐ	男	0	30	70
	女	0	20	80

まとめ

姫路市方言を見るに、まず、方言学上本県の置かれている位置について見る。本県は西日本方言圏にあり、さらに近畿方言の西部にあること。そして、県北部の但馬は方言学上は中国方言圏に入るのである。但馬はアクセント、音韻・文法の面で東山陰の鳥取県と同じ系統に入る。

播磨は中国方言の岡山県に接し、淡路は四国の徳島県に接するなど、近畿方言と中国・四国方言との交渉という面で本県方言を眺める必要があり、その上に立って当市の方言を考えることが大切である。

本県内を次のように分ける。

- 兵庫県方言
  - 但馬方言（中国方言系）
  - 摂丹播淡方言（近畿方言系）
    - 摂丹播方言
      - 摂丹方言（大阪色あり）
      - 丹波方言（京都色あり）
      - 播磨方言
        - 東播方言
        - 西播方言
    - 淡路方言
    - 摂津・丹波
    - 播磨・淡路

播磨方言をさらに小さく区画し、北播・東播・中播・西播とすることもでき、中播を市川・夢前川流域とすると姫路はこの中播とすることになる。

当市方言の特徴は本篇の全般に記した通りであるがこれをまとめると次のようになる。

音韻面で基本的な音韻は標準語とほぼ相違ない。一音節語（歯、目など）を長く延ばしてハー・メーなどという。b・r などの前に促音が入る。（遊ッビョル・有ッリャロなど）。ガ行鼻濁音は比較的よく保たれている。クヮ音も一部老年層に残っている（クヮ音は古い時代に京都などの中央語であった）。

アクセントも基本的には京阪式で大阪・神戸と変わらないが、先にあげた本市出身の都染直也氏の研究によると市北西部の林田町周辺はアクセント研究でいう垂井式であり他の地域とは若干異なる。

文法および語彙面では、先に播磨を東播・西播とに分けた中播の特徴をよく備えているものであるが、「動態調査」の中学生ことばを見ると次第に神戸化・大阪化していくことがわかる。

あとがき

本市の調査において、ご協力頂いたインフォーマントの方々の氏名を記して謝意を表する。氏名の下の（　）は生年、その下は住所。（五十音順）

位田　堯（たかし）（大・一五）姫路市飾磨区
犬塚　豊（昭・五）〃　〃　婁鹿
大竹繁生（明・四四）〃　五郎右衛門邸
亀山ちえ子（大・一四）〃　飾磨区婁鹿
桜井芳樹（明・三三）〃　五郎右衛門邸
篠木　昇（大・一〇）〃　林田町六九谷（むく）
白井重夫（大・七）〃　船津町
瀬良賢一（大・一四）〃　林田町新谷
瀬良善一（大・七）〃　〃　新谷
浜田　宏（大・一三）〃　飾磨区阿成（あなせ）
三木七郎（大・七）〃　〃　婁鹿
山本昌信（昭・五）〃　〃

姫路市立白鷺中学校・大的中学校・東光中学校・山陽中学校の学校当局および生徒の皆さんにご協力頂いた。また、インフォーマントをご紹介下さった市教育委員会・市史編集室の方々に厚く御礼を申しあげる。

（本学教授）